

竜の子 奨学生

TATSUNOKO NEWSLETTER

その夢は、きっと世界を変えていく。
The dream surely changes the world.



Contents

- P.2 「現在の夢」、お礼の言葉
- P.3 第45回交流会レポート



第45回交流会（金毘羅山にて）



大塚美術館からホテルの帰り道で撮影した海

- P.7 竜の子近況報告
- P.10 竜の子近況報告・茶道体験
- P.11 竜の子(OB・OG)近況報告
- P.12 SPECIAL REPORT I
- P.14 SPECIAL REPORT II
- P.16 編集後記

第 32 号
Mar. 2024

現在の夢



蔡碧月

台湾出身。筑波大学生命環境科学博士後期 単位修了。現在、淡江大学日本語講師、フリーランス翻訳・通訳、幼稚園・小学校・英会話塾の英語教師を務めています。日本語能力試験JLPT「N1」満点、TOEIC895点、国家試験日本語観光ガイド、印前製程技能士乙級などの資格を持っています。

二児の母です。仕事と子育てで忙しい毎日を送っています。二度と戻らない一日一日を大切に生きています。

2007年に家庭の事情で経済的な困難に陥り、まさに私の人生に大雨が降っていた時に、秋元理事長が設立した秋元国際奨学財団（現・竜の子財団）が傘をさしてくださいました。そのおかげで、学業に専念することができました。その恩を一日も忘れたことはありません。その時私は、日本と台湾を結ぶ架け橋になることを誓いました。

2010年に台湾に帰国しました。日本で頑張った成果が出て、日本語能力試験で180点満点を取りました。現在、大学で日本語を教えたり、日本語⇄中国語の翻訳、通訳の仕事をしたりしています。

授業では日本語を教える他に、日本文化や、日本人にお世話になった話や、竜の子奨学生として学んだことなどを学生にたくさん話しています。学生たちも日本が大好きになっています。この授業を通して日本を大好きな台湾人がどんどん増えています。

また、翻訳・通訳の仕事では、日本人と台湾人のビジネスが円滑に進められるように努力をしています。

さらに、医療通訳の仕事もしています。台湾に旅行にきた日本人旅行者が病院に行く時に、お医者さんと話が通じるように私が通訳します。旅行者たちに安心してもらえるとうれしいです。

私の仕事はどれも大きな仕事ではないけれども、どの仕事に対しても真心を込めて全力で頑張っています。仕事を通して、少しでも大好きな日本に恩返しが出来たら嬉しいと思います。

最後に、現在の夢について話します。私には息子が二人いて、そして学生がたくさんいます。この子たちが立派な人間になって、竜の子奨学生にもなったりして、将来日本と台湾と世界をつなぐ架け橋になって社会に貢献できるようになることが私の現在の夢です。この子たちがそうなれるように、私が一生懸命頑張ってお手伝いします。

小さな夢かもしれませんが、微力ではありますが、この世界を少しでもよくしていけたら嬉しいです。

ご寄付いただいた皆様へ

この度は、竜の子財団の奨学生を代表して、寄付して下さった皆様への心からの感謝の意を表明いたします。皆様の温かいご支援に心より感謝いたしております。

おかげさまで、私たちは素晴らしい経験を積み重ね、多くの学びと成長を遂げることができました。また、金銭的なサポートだけでなく、心の支えもいただきました。交流の場を提供いただき、私たちの誕生日には花籠を、新年には年賀状をお送りいただきました。これら竜の子財団の皆さんのご支援のおかげで、私たちの心は温かい気持ちでいっぱいになりました。

重ねてお礼を申し上げるとともに、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。今後も一層の努力と奮闘で、皆様のご期待にお応えできるよう努めてまいります。誠にありがとうございました。

（令和5年度竜の子奨学生 東京大学 万 皓瑛）

第45回交流会レポート

令和5年9月30日～10月1日、竜の子奨学生の第45回交流会が四国の徳島県と香川県で行われました。1日目は徳島県で渦潮を見て、午後には大塚国際美術館で作品の鑑賞、夕方には阿波踊りを観ました。2日目は午前中に阿波踊り会館で阿波踊りの歴史を見学し、香川県に移動して讃岐うどん体験をして金毘羅山に登りました。忙しい生活の中、束の間の楽しい時間を過ごせました。

交流会の当日、午前9時45分に羽田空港に集合しました。行き先が徳島県と香川県であることは知っていましたが、具体的にどの地域に行って何を体験し、何をみるのかは知らされていなかったため、奨学生たちは期待に胸を膨らませていました。その後、日程表を受け取ると、さらに楽しみになりました。

徳島空港に到着し、最初に訪れたのは鳴門海峡の渦潮でした。渦潮は満潮と干潮の時に発生するため、1日に2回しか見る事ができないと知り、早く見たいという気持ちが強くなりました。奨学生たちは土産物売り場を見て回ったり、購入したり、乗船口で写真を撮ったりしながら船を待ちました。観潮船に乗ってその上から近くでみた渦潮は、想像以上に大きく、速く、圧倒されました。時間が経つのも忘れて、奨学生たちは渦潮を十分に満喫して乗船口に戻りました。



鳴門海峡の渦潮

渦潮の強烈な印象が残る中、その日1泊する鳴門アオアヲリゾートホテルへ向かいました。昼食はアオアヲリゾート内の「海風」というプールサイドにあるお洒落なレストラン



アオアヲリゾートのランチにて

で、1テーブルあたり3人ずつ座り、お互いに話しながら炭火焼コースを食べました。昼食後にもともと予定されていたアクティビティはビーチバレーでしたが、日程が変更され中止になり、夕食まで自由な時間ができました。奨学生たちは鳴門で色々たくさんの体験をしたいと考え、ホテル

へ向かう途中で見かけた大塚国際美術館に行くことを希望しました。竜の子財団のスタッフさんは快く大塚国際美術館に行くことを許可してくださいました。

大塚国際美術館は日本最大級の常設展示スペースを有する陶板名画美術館です。古代壁画から、世界26ヶ国、190余の美術館が所蔵する現代絵画まで、至宝の西洋名画1,000余点をオリジナル作品と同じ大きさに複製しているため、原画が持つ美術的価値を感じることができるとのことで、楽しみになりました。エスカレーターに乗って入場すると、外観からは想像できない巨大な展示スペースが広がっていました。閉館まで自由に鑑賞することができ、まず初めに鑑賞した展示はシスティーナ礼拝堂天井画および壁画でした。見ている間、日本でなくバチカン宮殿にいるような気がしました。さらに、この美術館は、徳島出身である米津玄師さんが紅白歌合戦の生中継で「Lemon」を歌ったことで有名な場所で、実際の「Lemon」のジャケットが大型の陶板となって展示されているものを見ることができました。ルネサンス展示室、バロック展示室、近代展示室、それからテーマ展示など作品数が多かったため、矢印の案内に従って鑑賞を続けました。時間が足りなくて全部鑑賞できず、残念な気持ちで美術館をあとにしましたが、日本に居ながらにして世界の美術を体験できて嬉しかったです。



システィーナ礼拝堂天井画および壁画

帰りは道沿いに広がる海辺を眺めながらホテルへ戻りました。

(担当：令和5年度竜の子奨学生 北海道大学 李 垣由)

19時から竜の子財団のみなで一緒に和食を楽しみました。徳島の地酒も提供され、さっぱりとした味わいが美味しく、みんなたくさん飲みました。夕食後、阿波踊りのパフォーマンスを見に行きました。そこでは、鑑賞だけでなく、踊りの振りを真似て一緒に踊ることもできました。会場全体が非常に盛り上がり、皆さんが大いに楽しんでいる様子でした！阿波踊りを鑑賞した後も、奨学生たちの夜は終わりませんでした。みんなで集まり、お酒を楽しみながらお話しして、更に仲良くなりました。

翌朝はバスで移動し、9時に阿波踊り会館に到着しました。その中にある阿波踊りの歴史や文化に触れられるミュージアムを訪れました。そこには阿波踊りの衣装や小道具などが展示されています。特別なメガネをかけると、昔の阿波踊りを体験しているかのように鑑賞することもできました。印象的だったのは、阿波踊りを踊れるロボットです。そばの小さなモニターで、そのロボットが阿波踊り

を踊る様子を見ました。技術と伝統が融合した感覚、不思議で調和のとれた面白さがあります。

阿波踊り会館を出た後、バスで香川県に移動しました。香川県と言えば、「讃岐うどん」ほど有名で人気なものはありません！そこで、私たちは11時50分に香川県に到着してすぐ、人気の讃岐うどんの手打ち体験教室に行きました。そこで、讃岐うどんを作る楽しさを体験しました！全員が4つのグループに分かれました。それぞれのグループで、まずテーブルに粉を敷き、麺棒で生地を何回か伸ばして、麺棒の半分ほどの長さにしました。その後、包丁を使って伸ばした生地を指幅に切り分けました。最後に、作ったうどんをボウルに入れ、スタッフが回収しました。



阿波踊りが踊れるロボット



伸ばし終えた生地

その後、4つのチームでうどんの生地作り対決をしました。小麦粉と水で生地をこね始め、各チームのメンバーが交代で生地作りに参加しました。優勝するために、皆一丸となって全力を尽くしました。最後にスタッフが最も優れた生地を選出しました。(完成した生地は、各チームの中の1人が持ち帰り、ここで学んだうどん作りの手法を用いて自宅で自分で作り、いただきました。)その後、全員に中野うどん学校の卒業証書と、記念品として麺棒を授与していただきました。全員でうどん学校の卒業写真も撮りました！





うどんを鍋に入れる直前の瞬間

最後に、みんなで一緒に自分で作ったうどんを味わいました。各グループごとに1つのテーブルを囲み、テーブルの上には天ぷらや寿司など様々な料理が並び、うどんを茹でるための大きな鍋も用意されていました。私たちは生うどんを次々とお湯に入れ、うどんがじっくりと茹で上がっていくのを楽しみました。自分の努力の成果としてのうどんを味わうことで、皆がとても幸せな気分に包まれました。



(担当：令和5年度竜の子奨学生 東京大学 万 皓玥)

うどん作り体験の後は785段もの階段が続く金毘羅山への登山に行きました。初めの階段は比較的フラットで、道の両側には多くのお土産店が立ち並んでいました。登山の準備として、杖を借りる奨学生たちもいました。お土産のどれも魅力的で買いそうになりましたが、荷物が重くなることを避けるため、我慢してお土産は下山するまで待つことにしました。登山道を進むにつれ、段々と階段の勾配が急になり、足にかかる負担が増え、お土産店も少なくなってきました。疲れてきたころ365段目の大門に到着し、後ろを振り返ると市内の建物が広がっていて感動しました。初めは山頂まで半分も登っていない場所だと思っていましたが、ここからこの景色が見られるならば、山頂にはさらに素晴らしい景色が広がっているに違いないと、モチベーションが高まりました。

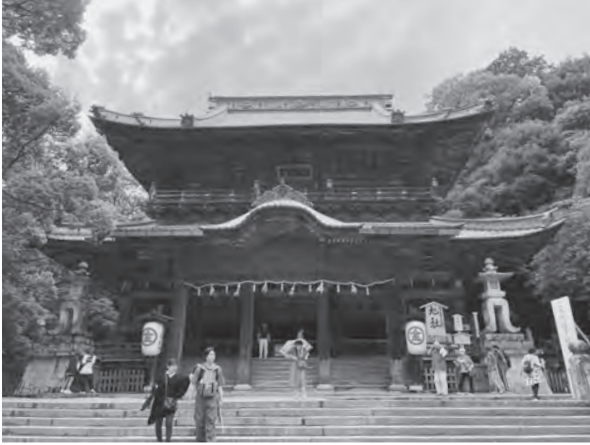


大門から見た景色

更に階段を登り続けると、不思議な石塀がズラリと並んだ道が続いていました。石塀には寄付額と氏名が刻まれています。調べてみるとここは桜馬場と呼ばれる場所で、両サイドには桜の木が植えられており、春には桜が満開になる絶景が広がるそうです。



桜馬場



旭社



石段628段目には旭社という大きな神社があり、登山もラストスパートとなりました。最後の100段ほどの険しい石段を登り切り、いよいよ785段のところにある御本宮に到着しました。私たちは御本宮で参拝し、写真を撮影し、疲れた体を休めました。山頂からは讃岐平野や飯野山が一望でき、美しい景色が広がっていました。飯野山、別名讃岐富士は香川を代表する山の一つで、円錐状をした美しい形が特徴です。



山頂の景色

私たちは御本宮付近で集合写真を撮り、疲れた中でも笑顔を見せ合いました。その後は自由行動となり、私たちは下山しながら写真を撮ったり、お土産を買ったりしました。山のふもとでは春日神社氏子祭りが行われており、祭りに参加した人々が法被を身にまとい、大きな太鼓台を持ち上げ、楽器が演奏されている賑やかな様子が広がっていました。

15時30分頃バスで空港に向かいましたが、ほとんどの奨学生が疲れ果てて寝ていました。バスガイドさんから高松空港にはうどんだしが出る蛇口があるとの情報がありましたが、行ってみると使用中止になっていて、残念ながらだしが出ることは見ることができませんでした。17時頃、帰りの飛行機に乗り、二日間の旅行は終わりました。竜の子財団のメンバーたちとの交流や新しい景色、思い出に溢れた貴重な時間でした。これからも勉強に励み、竜の子財団の仲間たちとのつながりを大切にしていきたいと思います。



楽しかった第45回交流会

(担当: 令和5年度竜の子奨学生 東京電機大学 威 涵欽)



竜の子近況報告

「修士課程の最終段階と博士課程への一步」

2024年になりだいぶ経ちましたが、皆さん年始に組んだ計画の通り過ごせていますか？北海道は1月から雪が本格的に降り始めて、雪の王国のように全て雪に覆われました。

私は今年に入ってから1週間おきに修士論文の提出、修士論文の発表、それから博士進学のための面接があって、忙しい日々を過ごしていました。修論は無事に提出しましたので、今、これを書いている時点では発表と面接に向けて頑張っ準備しています。すでに実家に帰る飛行機チケットを購入してあるので、修士課程を修了して博士課程も無事に合格してすっきりとした気持ちで家族と一緒に時間を過ごしたいです。



白い雪に覆われた北大

イ ウォンジュ
李 垣宙 (韓国)
北海道大学

「修士卒業のため忙しく充実した生活を過ごしています」

新年休暇、皆さんはどのように過ごされましたか？私は修士論文の執筆に忙しく、年末年始は毎日家で頑張りました。プロセスは非常に大変ですが、徐々に増えていく論文の内容を見ると、充実感があります。この過程で、現段階での英語の執筆能力の不足や、専門知識の蓄積の不足を深く感じています。また、学ぶこと、考えること、探求すること、実践することの重要性も感じています。皆さんと共に励まし合えればと思います。

年が明けるとだんだん寒くなり、仙台でも雪が降りました。そこで友達と一緒に仙台の繁華街に行って、イルミネーションを見ました。ライトアップされた歩道を歩きながら見る雪が舞う様子はなんとも言えない感動がありました。この一年、皆さんが毎日を幸せに過ごせることを願っています。



仙台繁華街の夜

オウ ユウセイ
王 勇成 (中国)
東北大学

「忙しい新年を迎えました」

昨年12月末、友達と初めて筑波山に紅葉を見に行きました。葉はすでにほとんどが赤や黄色に色づいていて、特に山頂から見下ろすと、赤や黄色の葉が重なり合っている模様が色とりどりの波のようで、本当に美しかったです。

博士論文をしっかりと完成させるため、修了を一年延長しました。年末年始には、3月の学会発表に向けての準備で、とても忙しい新年を迎えました。2024年は、卒業して就職する方もいれば、博士課程に進学して研究を続ける予定を立てている方もいて、皆さんにとっても非常に多忙な一年になると思います。新しい一年が、皆さんのそれぞれの目標が実現でき、充実したかつ幸福な一年になるよう心より願っています。



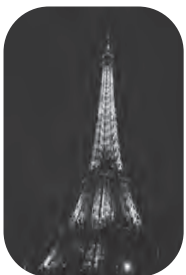
夜の筑波山の紅葉

リュウ ソハン
劉 楚帆 (中国)
筑波大学

「フランス旅行に行ってきました！」

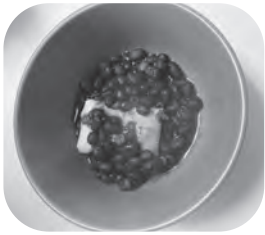
中学からの親友がパリに留学しているので、私はクリスマス休暇を利用して、パリで彼女と楽しい時間を過ごしました。パリでは、オルセー美術館、ポンピドゥー・センター、オペラ・ガルニエなどを訪れ、「ノートルダム大聖堂」というミュージカルも鑑賞しました。素晴らしい曲とパフォーマーの歌唱力に感動し、親友と共に存分に楽しみました！夜にはセーヌ川で遊覧船に乗り、パリの夜景を堪能しました。エッフェル塔がオレンジ色に輝く光景は見るだけで心温まりました。

機会があれば、ぜひもう一度フランスに訪れたいですね！



夜のエッフェル塔

マン ヨウゲツ
万 皓玥 (中国)
東京大学



ぜんざいとお餅

シュウ インファー
周 瑩樺 (台湾)
 東京大学

「今年もよろしくお祈いします。」

就活を終えたので、年末年始はゆっくり過ごすことができました。豆からぜんざいを作ってみました。一時間半煮ても豆が少し硬かったので再チャレンジしたいです…！

忘年会や新年会で、久しぶりに色んな人と会えて楽しかったです。みなさんともお会いできる日を楽しみにしております。

今年は修論と資格試験を頑張っていきたいです！よろしくお祈いいたします。



富士山と青空

ヨウ ジャクヒ
楊 若飛 (中国)
 東京海洋大学

「多忙な日常、富士五湖のひとつき」

最近忙しい毎日ですが、充実しています。少し前まで、大量のデータを処理していました。それは繰り返しの単調な作業で、毎日長い時間をパソコンの前で過ごしていました。

でも、週末にはリラックスできる時間もありました。友達と一緒に富士山周辺の五つの湖に行きました。合宿して遊び、きれいな景色を撮影しました。幸運なことに、雪に覆われた富士山の頂上を見ることができました。天気が悪いときは、富士山は雲や霧に覆われて見えないことがあると聞いたことがあります。

五つの湖の中で、私が一番好きなのは山中湖です。富士山に非常に近く、クリアで美しい富士山の反射した姿を撮影できます。私たちは白鳥の浜の近くに滞在しましたが、ここには多くの白鳥がいます。機会があれば、ここでのんびりとした一週間を過ごしたいと心から思います。

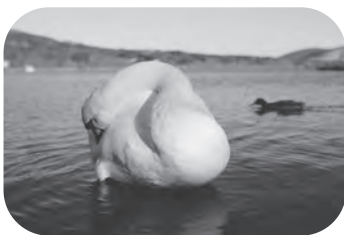


一晩寝かせた肉。ホットプレートで焼いて美味しく食べました

キム ヨンウ
金 栄牛 (韓国)
 東京工業大学

「体調管理に気を付けましょう」

昨年末、私の研究室では忘年会を兼ねた焼肉パーティーが行われました。その中で、私は韓国人だという理由で肉の熟成担当を任せられ、しょうゆと唐辛子、みりん、砂糖などを使って熟成たれを作りました。肉をたれに漬け込んで冷蔵庫で一晩寝かせて焼いたら、みんな美味しく食べてくれました。たれづくりに関してはコツがつかめたと思うので、機会があれば財団の皆様にも味わっていただきたいです。



恥ずかしがっている白鳥

チョン ルイション
庄 睿翔 (マレーシア)
 東海大学

「しっかり充電しています」

今年の学期末はまだ論文など書く必要がなく、ゆっくりできています。新年を迎え、学期が終わると、だいぶ時間が出来ました。冬休みが終わってすぐ春休みになったので、最近空いている時間にハリポッターを読み始めました。カタカナでハリポッターに出てくる人物の名前を読むとすごくかわいく感じます。

また、先日山中湖に行きました。白鳥が冷たい湖を泳いでいる姿もかわいいと思います。こんな寒い中白鳥たちは大丈夫のかな…



上野東照宮の
ぼたん

セキ カンシン
戚 涵欽 (中国)
東京電機大学

「気晴らしに上野公園に行って来ました」

卒業が近づき、卒論の発表などで忙しい日々が続いていますが、気分転換に上野公園に行ってきました。偶然にも上野東照宮でぼたん苑が開催されていたので、立ち寄ってみました。鮮やかな牡丹の花を見て、日々の疲れが和らぎ、心が少し穏やかになりました。歩いていると微かな花の香りが漂い、子供の頃におじいちゃんの家で遊んだ記憶がよみがえり、懐かしい気持ちに浸りました。忙しい日々はまだ続きますが、めげずに頑張ります。



群馬川場のス
キー場です。

ソウ チョウ
宋 兆 (中国)
一橋大学

「2024が来ました！」

あっという間に竜の子財団の奨学生としての1年が過ぎました。2023年の年末は修士論文と博士の進学準備で忙しかったですが、1月にようやく一息つけました。

この間に日本の冬にふさわしいスポーツであるスキーをしに行きました。今年は暖冬でしたが、群馬のスキー場ではしっかり雪がありました。かなり難しく何度も転びましたが、人生初めてのスキーなのでとても楽しかったです。そしてやはり、山の中の雪景色はきれいです。あとはスキー場のケーブルカーも面白かったです。皆さんも良い一年をお過ごしください。



チームメンバーとフットサル場で集合写真

クォン ヒョツチェ
權 赫宰 (韓国)
名古屋大学

「研究の息抜きにフットサル」

実験が相次ぐ日々、気分転換にフットサルをしながら過ごしています。大学に入ってから6年間、日韓フットサルチームのキャプテンを務めていますが、後少しでサークル活動が終わってしまうので、残念な気持ちでいっぱいです。今まで着実に大学生活を送って来れたのは、毎週大好きなフットサルを楽しめたお陰だと思っています。2年程前に「Yamanoue FC」というユーチューブチャンネルを作ってフットサルの動画を載せていますので、ご興味のある方は是非ご覧ください！

残りの研究活動も頑張って修士卒業を迎えたいと思います。みなさんも元気にお過ごしください！



永観堂での紅葉狩り

ソウ カシン
鄒 可昕 (中国)
京都大学

「就職活動を頑張っている最中」

昨年9月に、4年ぶりに帰った故郷では、多くの親族や友人に再会し、懐かしい故郷の味に舌鼓を打ち、とても嬉しかったです。11月に入ると、毎日エントリーシートの作成や面接の準備に追われつつ、研究の進捗も気にしながら過ごし、時には時間が足りないと感じることもありました。そんな中、余暇を利用して、友人たちと共に京都の寺院を訪れて心を癒やしてきました。今年の紅葉も例年通り美しさを誇っていました。もし機会があれば、是非京都での紅葉狩りはお勧めです。

就職活動の後半戦もより一層頑張っ、早めに終わることを目指しています。

次の交流会で皆さんに会うことを楽しみにしております！



松原で格好付けた
写真を撮ってもら
いました(笑笑)

ヨウ ジョ
楊 茹 (中国)
九州大学

「博士論文を提出しました。」

博士論文を提出した後、気分転換に佐賀県にある虹ノ松原駅を訪れました。そこは唐津湾沿いに広がる、全長約4.5kmもの虹のような弧状の松原があるため、このような駅の名前が付けられたのだと思います。海が見え、豊かな松の森が楽しめ、人出も少なく、温泉も豊富で、私にとって非常に魅力的な場所です。

福岡からは電車で2時間ほどで到着し、途中で2回も海が見えるので、道中もゆったりとリラックスできます。九州を訪れる際には、ぜひ佐賀県にも足を運んでみてください！特に自然が好きな方にはおすすめです。



久々にお肉を
食べて来ました

バン ジョンファン
方 鍾奐 (韓国)
立命館アジア太平洋大学

「友達と韓国の焼肉屋さんに行ってきました」

未だに2024年だということが信じられないのですが、時間が経つ早さを実感しております。去年は本当に楽しかったのですが、今年も奨学生の皆さんに楽しいことがたくさんあるように願っております。

最近友達と別府市にある焼肉屋さんに行ってきました。結構高いお値段なので、なかなか行けませんでした。友達にずっと誘われていて、ついに行ってきました。実際行ってみたら、韓国の本場の味とは少し違いましたが、久しぶりにお肉を食べてすごく元気になりました。お肉の力はすごいですね。皆さんが住んでいらっしゃる近くの近くにも韓国の焼肉屋さんがあると思いますが、ぜひ良かったら行ってみてくださいね。これからもどうぞよろしくお願い致します。

初めての茶道体験



去年10月に財団から機会をいただき、鎌倉市の長谷別邸にて茶道を体験させていただきました。日本に来て初めての茶道体験で、とても印象的でした。特に今回は、日本の茶道だけでなく、台湾茶の茶道もあわせて体験できたので、特別な経験となりました。

日本の茶道に関しては、茶席の作法が一番印象に残りました。まずお茶を点てる作法です。すべて決まった手順にそって丁寧かつ正確に行われます。お点前はまるでパフォーマンスを見ているようで、とても静かで落ち着いて、穏やかな気持ちになりました。その日は小雨がばらついていたのですが、庭にテントを張ってみんなで囲むように座り、お点前の様子を見つめていました。雨の中、偶然集まった人たちが心をこめてお茶を点てる方を見ている光景は、まるで詩のようで、とても美しかったです。そして、お茶をいただく作法です。お茶が運ばれてきたらどのようにいただくか、いただいた後どのようにお礼を言うか、すべて作法があります。

日本の茶道は、もてなす側ともてなされる側の共同作業のような印象を受けました。お互いが自分の役割を果たしながら、このパフォーマンスを一緒に完成させていくのが印象的でした。

一方で、台湾茶に関しては、もてなす側ともてなされる側の間の交流が印象に残りました。お点前さんはお茶を点てながら、使っている茶器や茶葉、お菓子の特徴や背景などを紹介してくださいました。台湾茶をいただく際には、私たちは庭から屋内に移動し、お点前さんの前に座って説明を聞きました。まるで台湾茶文化の講座を受けているようで、面白かったです。

今回は一度に日本と台湾の茶道文化の違いを体験できて、非常に新鮮でした。お茶を点てたり味わったりすることは同じですが、文化背景の違いによって点て方も味わい方も異なるという、とても興味深い体験ができました。



(担当：令和5年度竜の子奨学生 筑波大学 劉 楚帆)



竜の子(OB・OG)近況報告



インドネシア人の知り合い御一家との記念撮影

キ トウキ
魏 登輝 (中国)
東京外国語大学卒業

「日本経済に元気注入」

みなさん、ご無沙汰しております。
早くもまた一年が過ぎました。ここ最近の自分を振り返ると、一番のキーワードは「円安」かなと思います。コロナ自粛が解禁となり、そこで「円安」が追い風となってきて、多くの海外の友人が日本を観光しに訪れてくれました。また「円安」のおかげで、お買い物の際はみんな羽ぶりがよかったです。このまま経済の好循環が続いて、日本経済がより元気になってほしいですね～



アバターのロケ地・張家界

キ エンエン
冀 媛媛 (中国)
名古屋大学卒業

「充実した楽しい毎日を送っています。」

皆様、お久しぶりです！お元気ですか。
あっという間に2024年になりました。私の2023年はとても楽しかったです。皆様ご支援してくださったおかげで博士号を取得し、とても幸せな生活を送ることができています。
仕事面では、大学で働き始め、普段はいろいろな仕事に追われて忙しいですが、学生さんはとっても可愛いし、夏休み冬休みもあるし、文句は一切ないです！
プライベート面では、六年もつきあった彼氏とついに結婚証明書みたいなものを作りました。日本式に言うと、入籍したということですね。昔の彼氏=今の旦那様はすごく優しい人です。家事も仕事も手伝ってもらっています。
日本国内では年明け早々大変なこともありましたが、きっと明るい未来が待っていると信じています。皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします！



スノーボードを楽しむ私

キ シュクヘイ
紀 淑平 (中国)
東京電機大学卒業

「長野野沢温泉スキー場でスノーボードを練習しました。」

皆さん、お久しぶりです。
今年のお正月、私は大学時代の友達と長野野沢温泉スキー場に行って、三日間のスノーボードを体験しました。人生初めてのスノーボードだったので、結構転びましたが、最後には大部分の技を習得できて楽しかったです。
また、仕事の面では、現在技術課に配属され、毎日ゴム製品に関する生地の研究をして、充実した生活を送っています。
宇都宮にいますので、ぜひ宇都宮名物、餃子を食べて来てくださいね。
これからもよろしく願います。



テニスレッスン場にて

キム テヒョン
金 兌炫 (韓国)
京都大学卒業

「小さな幸せを感じながら着実に」

去年の秋ごろある偶然のきっかけにより、これからの人生の方向性が決まり、そのためやるべき段階的な目標ができました。それ以来、知的財産会社で普通の会社員として働きながら、夜はその計画のために少しずつ努力を積み上げています。そんな中、ストレスが多くなる日や寂しくなる日も偶にありますが、毎週月曜日はテニスレッスンを受け、水曜は3km走って、金曜は3kmを泳ぐなどして、小さな達成感を感じながら充実したかつ健康な生活をしています。

SPECIAL REPORT I

● 実体験による日中文化の違い ●

大学時代を含め、日本に滞在している期間が今年で10年になります。自身の感じたことを中心に、日中の文化の違いについてお話ししたいと思います。

まず、私は食いしん坊なので、食に関するトピックから話したいと思います。ご存じの通り、九州の博多とんこつラーメンや長崎ちゃんぽんなど、九州の麺料理は全国的に有名です。私の出身地である中国の山西省は刀削麺の発祥地で、麺が主食となっています。初めて日本に来た日、最初に訪れたのが博多ラーメン店でしたが、そこでカルチャーショックを受けました。店内にはラーメン、餃子、ご飯の主食セットがあり、これはまさに主食爆弾だと感じました（写真1：長崎ちゃんぽんの主食セット）。日本人の体は米でできていると言われていますが、実際に米が主食です。中国は広大な国土を持ち、気候の違いから南部では米が、北部では小麦から作った麺が主食となっています。要するに、麺はご飯と同じく主食として位置づけられているのです。また、ご飯とラーメンのような2種類の主食を一緒に食べるセットは中国にはなく、それぞれ一食として提供されることが一般的ではないかと思います。

留学初期の頃、大学の寮に住んでいたのが、ルームメー

トたちとの食事でも、この文化の違いを体験しました。彼らとの餃子パーティーでは、焼餃子がおかずとして提供され、ご飯と一緒に餃子を食べるという独特の経験をしました。逆にルームメートの日本人たちも、私がひたすら餃子を食べる様子にカルチャーショックを受けたと後で聞きました。この他にも鍋や和食コースの最後に必ず締めのご飯が出されることも初めての経験でした。

また、日中のお祝い事にも文化の違いを感じました。例えば、日本では開業時に贈られるお祝いの花環は商売繁盛を意味し（写真2：通りかかった時に撮った開業のお祝いの花環）、良い意味を含んでいます。しかし、中国では同じ形の花環は通常葬式で使用され、不祝儀が連想されます。また、結婚式にも異なる要素があります。日本の伝統的な結婚式では新婦が白無垢を着用するのに対し、中国の伝統的な結婚式では新郎新婦や親族が赤い衣装を身にまとう写真）。日本では白は純潔や嫁ぐ家の家風を象徴し、



写真1：長崎ちゃんぽんの主食セット



写真2：通りかかった時に撮った開業のお祝いの花環

神聖な儀式にふさわしいとされていますが、中国では赤がおめでたい色とされ、結婚式でよく見られます。結婚式に参加した人には「喜糖」（キャンディ）をお裾分けする習慣もあり、これは幸せや喜びを招くとされています（写真5：キャンディの入った赤色のボックス）。また、日本の結婚式に出席する男性が着用する白いネクタイは定番のス



写真3：新婦（従姉妹）が赤い衣装を身にまとう姿

タイルですが、中国の結婚式では白色のネクタイは不吉な色とされ、着用する人はいないと思います。これらの文化の違いは、異なる価値観や習慣が背景にあることを垣間見せてくれます。

最後にもう一つ、中国人は比較的ストレートな性格であるのに対して、日本人には本音と建前があることを理解するまでは苦労しました。例えば、『面白い』と言われた場合、それは独特であるか変わっていると思われることを意味する場合があります。同様に、『いつも元気ね』と言われた場合、それは声が大きいことを指しているかもしれません。異なるコミュニケーションスタイルや表現方法に戸惑いながらも、お互いを理解する中で、豊かな異文化交流が生まれると思います。

日本での10年間の滞在は、私の視野を広げ、異なる文化を尊重し合う大切さを学びました。また、何よりも大切なのは真心を持ち、人と出会い、付き合うことができれば、自分が仲良くなりたい素直な気持ちが伝わるといことです。そのため、文化のギャップがあっても、文化交流の架け橋となることができると思います。

（担当：令和元年度竜の子奨学生 九州大学 楊 茹）



写真4：新郎が赤い布地の花やネクタイを身につけている様子



写真5：キャンディの入った赤色のボックス

SPECIAL REPORT II

● 日本と韓国の経済発展の違い ●

私は日本で暮らしながら、日本と韓国の違いについていろいろと考えてきました。思うに今の日本と韓国があるのは、技術の発展があったからこそだと思います。そこで、私は日本と韓国の経済と技術の違いは何なのかについて皆さんにお伝えしていきたいと思います。

まず、両国の経済についてです。日本は1960年代から1970年代にかけて急激な経済成長を遂げ、世界有数の先進国に成長しました。日本は大企業を中心に高度に発展した経済力を持っており、自動車、電子製品、ロボット工学など多様な分野で世界をリードする技術力を培い、保有しています。



韓国のレストランで見られるローボード

一方、韓国の経済は20世紀後半から現在まで着実な成長を遂げてきました。特に1960年代から1990年代までは輸出中心の経済開発モデルを採用し、技術産業と製造業を強化しました。情報技術（IT）、自動車、半導体などの分野でグローバル企業を輩出し、経済成長を成し遂げました。両国は技術革新と研究開発についても力を入れています、それぞれの事情はどのようなのでしょうか。

日本は長い間、技術革新のリーダーとして君臨しています。トヨタ、ソニー、パナソニックなどの企業は、自動車、家電製品、音響機器などの分野で世界に誇る技術を有し、

グローバル市場で主導的な役割を果たしています。特にロボット工学、医療機器、高性能素材などの分野で研究開発を進めています。



韓国で見られるトヨタの車

韓国は特にここ数十年、技術分野で急激な成長を遂げています。サムスン、LG、現代自動車、起亜などの企業が世界的に認められている技術力を基に、グローバル市場で競争力を維持しています。また、5G通信、人工知能（AI）、バイオ技術などに対する投資を強化し、未来産業に備えています。



韓国で見られるヒュンダイの車

日本と韓国の現状と挑戦すべき課題は似ている点もありますが、違う点も多くあります。まず、日本の現状は依然として世界的な企業を通じて高いレベルの技術力を維持し

ています。しかし、日本経済はここ数十年、景気後退や人口減少などの問題に直面しています。また、技術革新において中国との競争で一部後退している状況です。そのため、先進の技術力を備えていた頃のように、未来に向けて技術力を成長させなければならないと考えられます。

韓国の現状はグローバルIT企業に成長したサムスンとLGを中心に電子製品、半導体、自動車分野で大きな成果を取っています。しかし、中国との競争において競争力を維持するのに苦勞しています。また、一部の企業の支配力が強すぎて多様性と中小企業の成長に制約が生じているのが実情です。そのため、中小企業と中堅企業がしっかりと成長していく必要があります。

日本と韓国は昔からいろいろな面で協力しつつ発展してきましたが、今後の展望となぜ協力すべきなのかについてここから述べていきたいと思います。



日本と韓国は技術革新の分野で互いに競争しながらも協力の機会を探しています。特に環境問題、再生可能エネルギー、医療分野での共同研究開発を通じて相互利益を追求しています。国際的な問題に対する解決策を求め、日本と韓国は共に技術発展のために協力し合い努力しなければなりません。日本と韓国はそれぞれ独特の経済成長の背景と技術力を持っています。現在は競争しながらも未来に向けてお互いに協力して持続的な発展を成し遂げようとする努力をしなければなりません。二国間の協力を強化し、歴史的な葛藤を乗り越え、両国が共に未来に向かって進む道を模索していくことが重要です。こうして、アジアと世界の技術的発展と繁栄に貢献することが期待されます。私もどこの国の企業や組織、団体に属しても母国の発展のためだけに頑張るのではなくて、様々な国のために、世界のために働いていける人材として成長していきたいです。

最後に、日本と韓国は共に人工知能（AI）分野において相当な技術力を持っています。日本はAI分野でも主要な役割を果たしています。ロボット工学、自動車産業、医

療など多様な分野でAI技術を積極的に導入しており、特にロボット技術分野では世界的な水準に達しています。日本の企業は、自動車内部のAI秘書、ロボット補助技術、医療用ロボットなど、さまざまな製品やサービスを開発しています。また、日本政府は「Society5.0」という概念を提示し、人工知能と社会問題の解決を通じた社会発展を追求しています。これにより日本は未来知能化社会を導く重要な役割を果たそうとしています。

一方、韓国は科学技術に対する国家的な関心と持続的な投資によってAI分野で成長を遂げています。韓国は優れたソフトウェアおよびハードウェア技術を保有しており、AI産業を先導する主要企業を含む多様なスタートアップが活発に活動しています。韓国政府は「AI大韓民国戦略」を通じて人工知能技術の研究開発に投資し、国家レベルでの人工知能生態系の造成を目指しています。これにより、国家経済と産業のデジタル化、革新成長を図っています。韓国のAI産業は多様な分野で活躍しています。特に、自動運転車、医療、製造業などの分野でAI技術が活用されています。例えば、韓国の自動車メーカーは自動運転車の技術開発に多額の投資をしており、医療分野では医療画像の分析、疾病診断などにAIを適用して医療革新を遂げています。また、韓国はAI倫理と安全問題にも注目しており、適切な規制および倫理的ガイドラインを開発し、AI技術の安定性と信頼性を確保しようとする努力を続けています。

私はニュースを見るたびに両国のAIに対する技術発展に驚き、これからはAI産業がさらに大きくなりそうだという確信をしています。両国のAI産業は互いに競争しつつも協力する姿を見せています。韓国と日本は共同研究や技術交流を通じて相互発展を図っており、地域的な協力を通じてアジア地域のAI産業を先導しようとする努力を行っています。しかし、両国とも人材確保と人材養成、技術的な競争力強化などの解決しなければならない課題があります。人工知能分野のグローバル競争が激化する中、韓国と日本は持続的な努力と協力を通じてAI産業でより大きな成果を上げていけると 생각합니다。今後の経済発展のためにもAI産業は重要な分野だと思われませんが、社会の否定的な一面も考慮しつつ両国が技術発展のためにさらに協力していけたら良いと思っています。両国の技術協力を通じて美しい国としての成長を止めずにいるということに尊敬しなければならず、より一層熱心に生きなければならないという動機付けになりました。

(担当：令和5年度竜の子奨学生 立命館アジア太平洋大学 方 鍾煥)



委員長 東京大学 万 皓玥

学生としての最後の時間に編集に参加できて、非常に嬉しかったです。特に、自分が担当する交流会レポートを書く際、交流会の楽しかった瞬間を再び思い出し、思い出が一層深く心に刻まれました。会議中は、一人一人が力を合わせて作り上げた原稿を見て、「団結」と「協力」の重要性を感じ、感動しました。これまで竜の子財団に支えられてきましたが、今回は私も財団の運営に貢献できたことを実感できて、とても嬉しかったです。これからも努力しつつ、社会貢献したいと考えています。

委員 北海道大学 李 垣宙

この度、竜の子財団会報誌第32号の編集委員として参加させていただきました。私が執筆した部分は、「交流会の1日目」です。会報誌の執筆は初めてで、最初は原稿をうまく書けるか心配でしたが、楽しかった交流会での思い出を振り返りながら執筆していくうちに、不安はなくなり、楽しみが増えました。編集委員の皆さんと関係者の方々のご協力のおかげで会報誌第32号を完成でき、貴重な経験となりました。

委員 九州大学 楊 茹

この度、竜の子財団会報誌第32号の編集委員として参加させていただき、非常に楽しく思いました。今回は3回目の、そして卒業前最後の編集委員で、ワクワク楽しみながら取り組みました。私が執筆した部分は「スペシャルレポート」で、日中文化の違いを実体験をもとに作成しました。日本にいるこの10年を振り返る良い機会でもあり、非常に感慨深かったです。1回目と2回目の会議はオンラインで行われましたが、3回目の会議は対面で開催され、皆さんと会うことができ良かったです。編集委員の皆さんや関係者の方々のご協力のおかげで、会報誌第32号を完成させることができ、貴重な経験となりました。

委員 東京電機大学 戚 涵欽

今回の会報誌で、交流会レポートの後半を担当させていただきました。作文は苦手ですが、頑張って執筆しました。私が感じたものが少しでも伝えられたら幸いです。作業している間に交流会を思い出して、交流会に参加して良かったと思いました。会議で同期の皆さんにまた会えて嬉しかったです。編集委員の皆さんと一緒に頑張ったおかげで、とても面白い会報誌ができたと思います。また、会報誌制作という貴重な経験を頂き、本当に良かったです。財団の皆様にご心より感謝申し上げます。

委員 東京海洋大学 楊 若飛

この度の編集で、私は皆さんの近況報告を集め、整理する役割を担当しました。このセクションの編集作業はそれほど難しいものではなく、日本語が苦手な私に、委員会が比較的簡単な仕事を割り当ててくれたことに感謝しています。こうした心遣いからも、私は財団と仲間の支えを強く感じることができました。皆さんからの近況を待つ楽しみと期待感も、非常にユニークで楽しい経験でした。日本語の誌面の編集に関わるのはこれが初めてで、この経験が他の奨学生との交流の機会を増やし、私の留学生活に彩りを加えてくれました。

委員 立命館アジア太平洋大学 方 鍾煥

私は今回竜の子財団のSPレポート2を担当させていただきました。今回、編集を行う上で、他の学生たちのレビューと一緒に聞かせてもらったことが、より自分自身が成長できるきっかけとなりました。誠にありがとうございました。一つのプロジェクトを達成するために、皆で力を合わせて作業を行うのは、とても楽しかったです。オンラインで参加した際、Wi-Fiの状況が良くないという困難もありましたが、一緒に討論しつつどのような文を作成していくべきかを確認し、話し合いながら作り上げていく過程は本当に幸せな時間でした。貴重な時間を作ってくださったすべての方々に本当に感謝いたします。



第一回編集会議



第二回編集会議



第三回編集会議後



「その夢はきっと世界を変えていく」

作詞：竜の子奨学生

作曲：班 文林（平成21年竜の子奨学生）

夢 希望をかなえる為 僕たちは生きている
その夢はきっと世界を変えていく 平和のため
いろんな事があるけれども どんなときでも

仲間とともに乗り越えて 竜の子の誇りを胸に
夢 希望をかなえる為 みんなは生きている
その夢はきっと世界を変えていく かならず